

日本とアジアの経済		講義	教授 大西 一成
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の選択必修科目	科目ナンバリング	23100101

1. 授業のねらい・概要

本講義では、国際経済の中でもとりわけ成長著しいアジア諸国と日本経済の動きを踏まえながら、こうした地域における貿易、国際金融、直接投資等における諸問題を取り上げる。こうした学習を通して日本とアジア諸国がともに発展することの重要性に焦点を当てる。また近年台頭著しい「グローバル・サウス」も南アジアのインド等を中心に重視する。さらに生産性や直接投資、為替等に関する基礎理論の修得もねらいとしている。

2. 授業の進め方

基礎理論を重視し、日々の動向について理論的に考察することを重視する。そのため、経済専門紙はもとより経済関連のタイムリーな論文等についても取り上げ、解説していく。とりわけ国際金融、国際貿易関係については重視する。

3. 授業計画

1. イントロダクション（授業のねらいと進め方について）	9. 米国の金融政策がもたらす影響
2. アジアの経済発展と経済動向～東南アジアを中心に～	10. 米国の貿易政策が日本及びアジアにもたらす影響
3. 日本経済の分析とそのデータの事例研究	11. 中国の経済動向と日本・アジア経済
4. 日本とアジア・グローバルサウスとの経済関係	12. 英国・EUの経済動向と日本・アジア経済への影響
5. 日本経済と新興国経済（グローバルサウスを中心に）	13. アジアにおける自由貿易体制の概観
6. 日本とアジアの経済関係①（半導体を中心に）	14. 貿易協定がもたらす日本・アジア経済への影響
7. 日本とアジアの経済関係②（自動車産業を中心に）	15. 日本・アジア経済が抱える問題点及び予想される今後の経済動向に関する総括
8. 日本とアジアの経済関係③（TPP, RCEPを中心に）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容については授業の進度内容に応じて適宜、授業において伝える。こうした予習・復習に必要な時間は、概ね2時間程度であろう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験の採点結果は要求に応じて個人的に公表する。学期中の試験、レポート等については、解説とともに返却したい。宿題については、ミニッツ・ペーパーによる提出を求めるとともに、その解説は次の授業冒頭で行う。

6. 授業における学修の到達目標

日本経済はもとより、アジア経済、ひいては国際経済の動向について受講者自ら論じられる力の習得を到達目標とする。アジアを中心とした国際金融、経済協力関係に関する基礎力の修得を目指す。

7. 成績評価の方法・基準

授業への参加状況及び課題提出等（30%）、学期末試験（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書は、特に限定しない。授業において適宜、必要な論文、資料、データ等を配布する。

参考文献は、杉山伸也（2014）『グローバル経済史入門』（岩波新書、860円＋税）、藤田昌久・若杉隆平[編著]（2011）『グローバル化と国際経済戦略』（日本評論社、4600円＋税）。

9. 受講上の留意事項

1年次科目「グローバル化と国際社会A・B」も併せて履修することが望ましい。また2年次における「アジア地域ビジネス論」にもつながる科目と言えよう。今日の日本経済、アジア経済の動向については経済専門紙を図書館等で日々講読

することが重要である。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。